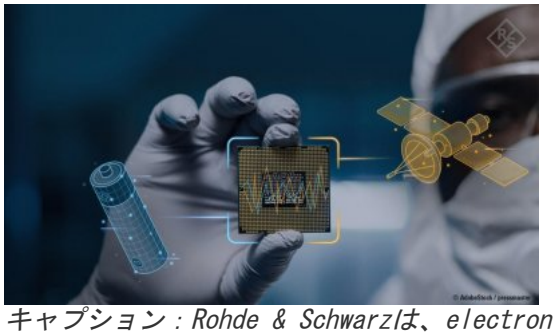
ローデ・シュワルツ、electronica 2026に出展 – 日常的なベンチ作業から高度なテストアプリケーションまで

ミュンヘンで開催されるelectronica 2026において、ローデ・シュワルツは、日常的なラボ作業から新たな測定アプローチが求められる高度なアプリケーションまで、幅広い用途に対応する最先端のテスト・計測ソリューションを紹介します。ブースA4.307では、衛星・レーダーテスト、電子回路およびRF設計、パワーエレクトロニクス試験、EMC適合性試験、量子研究、生産ラインテストに関するデモを実施します。



キャプション：Rohde & Schwarzは、electronica 2026に「日常から特別な領域まで」をモットーに出展します。

2026年11月10日から13日まで、テスト・計測のスペシャリストであるローデ・シュワルツは、地元ミュンヘンで開催されるelectronica 2026に**「日常から特別な領域まで」**をモットーに出展します。ホールA4のブース307では、開発者、電子機器エンジニア、テストの専門家に向けて、幅広いライブデモを紹介します。展示では、日常的なエンジニアリング業務で使用される測定器から、高度な測定課題に特化して設計されたソリューションまでを取り上げます。

見どころ – 日常から特別な領域まで
日常的な用途向けには、スペクトラム解析、リアルタイムスペクトラム解析（RTSA）、ベクトル・ネットワーク解析（VNA）、パワーメーター測定を1台に統合した、**新しいハンドヘルド型コンビネーション・アナライザ**を紹介します。こちらは、フィールドでの使用を想定したポータブルな測定器です。また、最大5つの独立チャンネルを備え、幅広いベンチ測定に対応する、DC電源ファミリーの新製品**R&S HMP5050**も初公開します。

より高度なアプリケーション向けには、革新的なマルチチャネル機能、高感度、広いダイナミックレンジを備えた**FSWX**シグナル・スペクトラム・アナライザを紹介します。ローデ・シュワルツのエンジニアが開発したこの製品は、従来の測定手法の制約を克服することを目的としています。さらに、さまざまなアプリケーションや産業分野における幅広いテスト課題に対応するデモも実施します。

航空宇宙・衛星テスト
航空宇宙・衛星テストでは、**低軌道衛星リンク**とフェーズドアレイのビームステアリングを対象とし、ロボットアームを使用して衛星の動きを再現するテストベッドを紹介します。また、オールインワン型シグナリングテスタ**CMX500**を使用した5G非地上系ネットワーク（NR-NTN）テストも披露します。さらに、**AREG800A**車載レーダーエコージェネレーターを用いた、6G ISACにおけるドローン検知向けマイクロドップラーシミュレーションも紹介します。

電子機器・パワーエレクトロニクスのテスト
電子機器およびパワーエレクトロニクスのテストでは、初期設計から検証までエンジニアを支援するソリューションを紹介します。**ZES ZimmerのLMG600シリーズ**電力アナライザによる電動ドライブトレインの効率測定、**MXO**オシロスコープによる三相電力解析、**MXO 5**オシロスコープと**R&S RT-ZISO**絶縁プロービングシステムを使用したワイドバンドギャップデバイスの電流過渡測定などを実施します。別のデモでは、**ScopeSyncアプリ**を使用して複数のオシロスコープを同期し、最大24チャンネルの測定を行う方法を紹介します。また、**MXO AI Connect**も取り上げます。これにより、対応するAIエージェントがMXOの知識にアクセスし、オシロスコープを制御し、自然言語を使って測定ワークフローを支援できます。

検証用途向けには、**R&S RTP**オシロスコープと**Signal Edge Solutions**が提供する**PicotestのSEPIA**を使用し、SerDesアプリケーションを含む高速設計の信号インテグリティおよび電源インテグリティ測定も紹介します。**R&S ZNB3000**ベクトル・ネットワーク・アナライザを使用した最大54 GHzの高速デジタルインターフェーステストも展示します。

RF・マイクロ波テスト

RF・マイクロ波アプリケーションでは、R&S　FSWP位相雑音アナライザと周波数エクステンダーを使用し、最大170　GHzの位相雑音測定を紹介します。ブースでは、FSWXシグナル・スペクトラム・アナライザの2チャンネル構成を使用した、広帯域変調信号による2ポートアンプのテストも実施します。また、R&S ZNAベクトル・ネットワーク・アナライザと新しいR&S　SAM200システムアンプを組み合わせ、完全に統合・校正されたテスト構成でKaバンド高出力アンプを特性評価するデモも行います。さらに、AREG800A車載レーダーエコージェネレーターを使用した、車載レーダーの検証向け干渉テストについても紹介します。

EMC適合性試験
その他のデモでは、速度、自動化、柔軟性に重点を置いた伝導・放射EMI測定を取り上げます。R&S ESW EMIテストレシーバーによる超高速適合性試験と、R&S ELEKTRAソフトウェアによる自動EMCテストを紹介します。 R&S EPL1007 EMIテストレシーバーは、ニーズの変化に応じてアップグレードできる柔軟性を提供します。複雑な環境向けにカスタマイズされたRF・EMCテストシステムも展示します。

量子研究
量子研究分野では、Zurich Instrumentsが量子コンピューティング、量子センシング、センサー制御向けのソリューションを紹介します。デモでは、単一量子ビットから1000量子ビットまで拡張可能な量子コンピューティング制御システム（SHFQCおよびZQCS）、量子技術向け任意波形発生器（HDAWG）、インピーダンスアナライザ（MFIA）およびロックインアンプ（VHFLI、SHFLI）によるセンサー特性評価を取り上げます。

生産、製造、サービス
生産・製造分野では、MXO 5Cオシロスコープを使用したPE-SystemsによるAQG 324などの規格に準拠したパワーエレクトロニクスモジュールの最終工程テストに加え、R&S ExpressTSVPテストプラットフォームとCMP180無線通信テストセットを使用したテレマティクス制御ユニットおよびワイヤレスバッテリーマネジメントシステムの製造テストを紹介します。

さらに、ローデ・シュワルツは、試作から量産までをカバーする**電子機器製造サービス**（EMS）を紹介します。来場者は、オンサイト校正、デポサービス、校正・修理オプション、保証延長などを含むローデ・シュワルツの**サービス**メニューについても確認できます。

ローデ・シュワルツは、2026年11月10日から13日まで、electronica 2026の**ホールA4、ブース307**に出展します。詳細については、以下を参照： https://www.rohde-schwarz.com/electronica

www.rohde-schwarz.com

【ローデ・シュワルツ・ジャパン株式会社について】

Rohde & Schwarz GmbH & Co. KG.（以下ローデ・シュワルツ社）は、1933年、ドイツ・ミュンヘンでDr. Lothar RohdeとDr. Hermann Schwarzによって設立されました。電子計測、技術システム、ネットワークおよびサイバーセキュリティの各分野で事業を展開するテクノロジー企業として、より安全に“つながる”社会の実現を目指しています。ローデ・シュワルツ・ジャパン株式会社は、2003年にローデ・シュワルツ社の完全な独立会社として発足し、自動車、ワイヤレスコミュニケーション、エレクトロニクス、航空防衛など多岐にわたる分野で、日本国内の製品販売およびサービス・サポートを行っています。

R&S®は、Rohde & Schwarz GmbH & Co. KG.の登録商標です。

すべてのプレスリリースは、画像のダウンロードを含め、http://www.press.rohde-schwarz.comからインターネットでご提供しています。

■本件に関するお問い合わせ■
〒141-0033
東京都品川区西品川1-1-1　住友不動産大崎ガーデンタワー20階
ローデ・シュワルツ・ジャパン株式会社
マーケティング部　関野 敏正（Toshimasa Sekino）
電話番号：+81 3 5925 1270/1290
Eメール：Toshimasa.Sekino@rohde-schwarz.com
Webサイト：https://www.rohde-schwarz.com/jp/home_48230.html